

令和5年2月3日

東松島市議会議長 小野 幸男 様

(会派名) 自公・市民の会

代表者氏名 土井 光正



会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

1 会派活動の項目(該当を○で囲む)

調査研究費、研修費、広報費、広聴費、要望・陳情活動費、会議費

2 活動名称: 行政視察

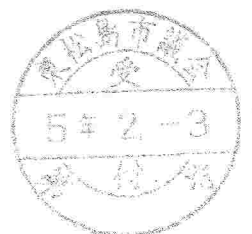
3 実施期日: 令和5年1月11日(水)～1月13日(金)

4 活動成果: 各以下のとおり

5 添付書類: 各別添のとおりに

6 参加名簿

番号	役職名	議員名(フリガナ)	備考
1	代表	トイ ミツマサ 土井 光正	産業建設常任委員会副委員長
2	副代表	イシモリ コウジ 石森 晃寿	総務常任委員会委員長
3	幹事長	テシロギ コ 手代木 せつ子	総務常任委員会副委員長
4	経理責任者	アサノ ナオミ 浅野 直美	民生教育常任委員会委員



(1) 姫路城を活かした観光施策について

日 時：令和5年1月11日（水）15：30～16：30

場 所：姫路市役所内

目 的：姫路城を活かした観光施策および文化財を活用した観光行政について、
今後の関連事業推進の参考にする。

出席者：議会事務局調査課 課長 濱田 裕子

観光スポーツ局 観光文化部観光課 係長 西本 雄太

説明概要：別添資料のとおり

質疑応答内容：

研究事項として、下記の2点を事前質疑として提出し、姫路市の中心市街地活性化の取り組みについて説明を受けた。

1) 姫路城を活かした年間イベント（行政及び観光）の実施状況について

姫路市には、姫路城大改修後、H27.3.27 姫路城グランドオープンした際は11,902,000人の総入込客数があったが、新型コロナウイルス感染症が発生した以降、令和3年度は4,209,000人と激減した。特にインパウンドの姫路城入場者数は令和2年、3年度は10,000人を割った。徐々に回復はしてきたが、入場者のニーズはコロナ前とは異なり富裕者層への事業が求められている。

姫路城歴史体験事業では、コロナ前は500円のお姫様・お殿様なりきり着物体験が人気であったが、姫路城にゆかりのある千姫・忠刻復元着物（レプリカ）着用体験10万円（5組募集）では開始4分で終了するなど人気が高い。また、姫路城生きた歴史体感プログラム、無形文化財の大名行列事業では、ゲスト出演も考慮に入れ将来的には姫路に根付いたものにしていく。

今後の課題は誰でも姫路城内に登れることを考えれば、将来的には城の中にエレベーターが必要になるかもしれないが、世界文化遺産・国宝でもあるため難しい問題である。

2) 文化財を利用した観光行政について

姫路は「村」という意識が強い「まち」である。他の所から入った者に姫路に来て良かったと思える「おもてなし」のできるまちになれば、市内にもっとお金を落としてもらえものと考えている。

来客に向けて様々なイベントは計画するが、姫路城との関連付けが必要で、旅行会社等へは半年前から情報を伝えることが大事である。

（西本係長）

所 感：

姫路市は姫路城をはじめ数多くの文化遺産、歴史・文化・自然等の多彩な観光資源に恵まれてはいるが、姫路城以外の認知度は低いためか、市内の回遊が少なく観光宿泊客が少ない。食資源は多彩であるが、それを活かした食や土産物など特産品等が少ない。

本市には、日本三大溪の一つ「嵯峨溪」、自然豊かな奥松島オルレ・みちのく潮風トレイルでの散策や54ホールのパークゴルフ場、大人気のブルーインパルス等、他の自治体に秀でた関係人口を受け入れる目玉は数多くあるが、姫路市同様に市内への観光宿泊客が少ない。交通の便が良すぎるためか、宿泊は松島町や仙台市など東松島は単なる通過地点に過ぎないのが現状である。土産物も海苔と牡蠣が主流である。

2021年度、官公庁の「日本版持続可能な観光ガイドライン」モデル地区に選定され、2022年度、「世界の持続可能な観光地TOP100選」に選ばれた本市は、それらを大きなメリットとして、市内にある観光資源を大いに生かした事業の展開が必要と思われる。行政が様々なイベントを企画し実施する前に、それに関連する事業者などに十分な情報提供と周知が必要であると実感した。

今回の視察先は、誰もが知る「姫路市 姫路城」であったが、規模は違いますが行政としての今後のチャレンジという面では共通する面があると感じた。



観光施策についての概要説明状況



議場での記念撮影

(2) おの夢と希望の教育（おの検定）について

日 時：令和5年1月12日（木）13：30～15：00

場 所：兵庫県小野市役所 6F 市議会第2委員会室

目 的：本市の重要な政策課題の一つである学力向上について、先進的な取組で確実な成果をあげている小野市の「おの夢と希望の教育（おの検定）」について取り組み状況を確認し、本市の教育政策推進の参考とする。

出席者：議会事務局 局長 河合 仁^{まさし}

小野市議会副議長 平田 真美

教育委員会教育指導部学校教育課 主幹 中村 栄喜 主幹 藤井 潤

説明概要：別添資料のとおり

質疑応答：

1) おの検定スタート時点での児童生徒、市民の反応

東北大学教授、川島隆太氏の脳科学に基づく教育についての提唱が市民に受け入れられ、市全体として教育を理解し児童生徒も積極的に学習に励んでいる。

2) おの検定、現在の実施状況と今後の計画について

平成16年からおの検定に取り組んでいて重点施策として位置づけている。特に、検定という競争力を身につけさせ学習意欲を湧かせるため、行政と議会の理解によって進めている。

他の特記事項として

○教員人事は、小野市内での異動で教師の負担を少なくしている。

○小野市が全国で初めて「いじめ条例」を施行している。

○幼少連携で子どもが生まれる前から未来のパパママ教室等の開催に取り組み、脳科学（前頭前野）について啓発活動を行っている。

所 感：

東北大学教授川島隆太氏を小野市教育行政顧問に置き、脳科学について指導助言を受け、脳の仕組みを理解し学校教育活動に取り入れていることは非常に実践的で効果的であると感銘を受ける。

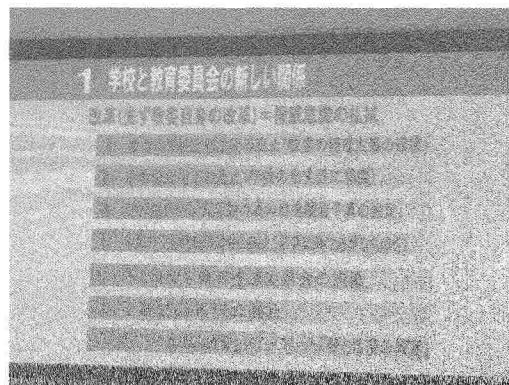
また、小野市独自の取組である「おの検定」はじめ、小中一貫教育、就学前教育の充実等、先進的であるとともに、学力向上に成果をあげているのは、保護者の意識向上と家庭学習の定着、家庭と学校との連携に注力していることも成功要因の一つと思慮する。

小野市では、心の教育も重要と捉え、幼少期からの親子の触れ合いの大切さや食育や睡眠等家庭環境の充実も保護者へ周知している。

本市においても、保護者の理解と意識向上が学力向上の鍵を握ると思われる。これからの社会を担う子どもたちの心を育てるため、行政のサポートを充実すべきと強く感じた。



おの検定について説明状況



学校と教育委員会の新しい関係の項目
についての説明状況

(3) 「パピオスあかし」の視察（兵庫県明石市）

日 時：令和5年1月13日（金）9：30～11：00

場 所：兵庫県明石市駅南地区再開発ビル「パピオスあかし」2F 会議室

目 的：「パピオスあかし」を視察し商用施設と合体された市役所の機能効果について今後の関連事業推進の参考とする。

出席者：明石駅南地区市街地再開発組合理事長 喜田 耕史

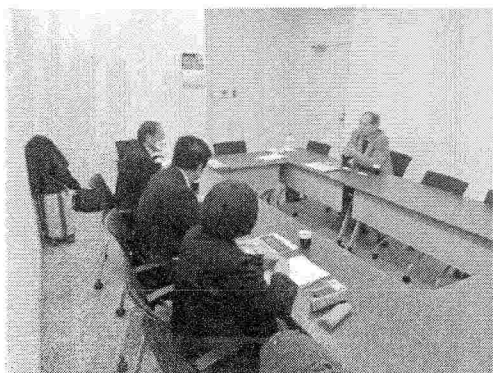
（元明石市都市整備部長、元土木部長）

説明概要：別添資料のとおり

所 感：

明石市は、人口 304,714 人 面積 49.42 km²の大都市であり、JR 明石駅南側に駅前再開発事業と併せて建設された「パピオスあかし」は、文化や生活スタイルの発信地となっている。6階建てビルは、1階から3階は民間の書店、美容室、飲食店、4階は市の図書館、5階は子育て支援センター、一時保育ルーム、中高生世代交流施設、親子交流スペース、6階は市の総合窓口（ワンストップ窓口）となっている。隣には、34階建てのタワーマンションがあり立地的にも機能的にも市民から愛される「街の顔」となっている。

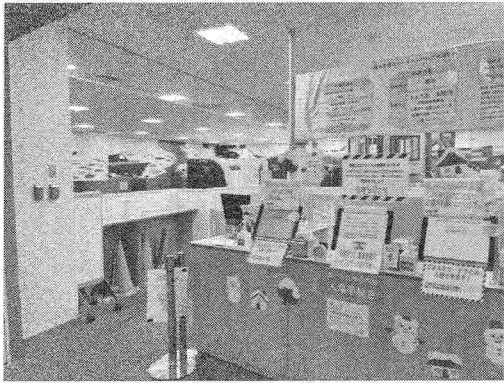
また、ビル内は子育て政策が集約した施設となっており、赤ちゃんの出生数も3年連続増となっていることは、政策と環境に恵まれれば少子化の問題は、解決されるのではないかと感じた。



「パピオスあかし」の概要説明



市役所機能を有する施設



親子交流スペースハレハレ



明石たこ大使さかなクンの
ギョギョ工作ルーム